教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	英　語

発行者	総合的な所見
東　書	**（ア）第１の観点　基礎・基本の定着** ①Unit ごとに目標を提示している。 ②A Unit では、目的・場面・状況を意識し、５領域をバランスよく活用することができるようになっている。 B 既習文法が後の単元で使用されている。 **（イ）第２の観点　主体的に学習に取り組む工夫** ①単元冒頭に扉として、写真をもとに生徒とやりとりをし、題材内容への興味を高めるとともに、Unit 本文前に、文法の「目的・場面・状況」を表す音と映像を見て、「気づき」を促す Preview を設定している。 ②単元の最初に単元目標を「題材」と「活動」について示し、単元末に４段階で自己評価する振り返りを設けている。 **（ウ）第３の観点　内容の構成・配列・分量** ①A １学期で指導する Unit１～５では、小学校で扱った内容を網羅し、文法として整理しなおすステージとなっている。また、該当 Unit の見開きの最初は、小学校で習った表現を使う「話す」活動で導入を行う。 B 広島の原爆投下をモチーフにした生徒の心情にうったえるような題材を取り上げ、人権・平和や国際貢献などの道徳心を培うように配慮している。 **（エ）第４の観点　内容の表現・表記** ①簡単な語句や文を用いて即興で話す練習ができる「巻末資料」がある。「巻末資料」Word Room（１５６～１５９ページ） ②巻末に、「学習を振り返ろう　CAN-DO リスト」を設定し、各学年の５領域別の学習到達目標を Stage１~Stage３まで示し、４段階で評価するようにしている。 **（オ）第５の観点　言語活動の充実** ①「Unit Activity」に、自分の考えを深めて表現につなげる対話的な活動を設定している。これにより各単元の学習成果を確認することもできる。 ②各学期末に設定されている Stage Activity では５領域の統合を図った学習活動が設定されている。各 Unit で学んだ知識・技能を活用させながら、表現力を育成することができる。(具体例：第３学年４８ページ「My Activity Report」)

開隆堂	**（ア）第１の観点　基礎・基本の定着** ①PROGRAM ごとに目標を提示している。 ②Ａ 各課で学んだ言語材料を活用したパフォーマンス活動を行うことにより、統合的な活動ができる構造になっている。 Ｂ 既習文法が後の１単元で使用されている。 **（イ）第２の観点　主体的に学習に取り組む工夫** ①単元冒頭にとびらとして、写真や簡単なリスニングで題材への興味付けを行うとともに、マンガ形式の短い対話で新出表現を理解する Scenes を設定している。 ②単元の最初に単元目標を示し、達成していればチェックを入れる振り返りを単元内に設けている。 **（ウ）第３の観点　内容の構成・配列・分量** ①Ａ 小学校での既習事項を確認するページを Get Ready のページとして１３ページ（６時間分）確保している。小学校で慣れ親しんだ「場面を表す絵（マンガ）を見ながら、やり取りを聞く」活動を通して新出表現が学べるようになっている。 Ｂ 広島に送られる折り鶴とその再生について知ることで平和と正義を求め、主体的に社会の形成に参画するきっかけを与えている。（２学年９９ページ～） **（エ）第４の観点　内容の表現・表記** ①簡単な語句や文を用いて即興で話す練習ができる「巻末資料」と「付録」がある。「巻末資料」・クイック Q&A（２学年年１３０ページ）・アイディアの広げ方（２学年１３６ページ）・いろいろな職業⑥・日本の祝日・学校行事⑧「付録」・アクションカード１～４ ②巻末資料に「英語で『できるようになったこと』リスト」として、５領域別に学習到達目標を設定し、達成していれば日付を記入するようにしている。 **（オ）第５の観点　言語活動の充実** ①各単元末に Interact があり、単元で学習した内容を使って自己表現する活動が設定されている。目的や場面・状況が設定されており、生徒同士のやり取りを促すことができる。（具体例：目次の次ページ） ②各学期末に設定されている Our Project では、各 PROGRAM で学んだ知識・技能を活用させながら、表現力を育成することができる。（具体例：第３学年８５ページ 「あなたの町を世界に PR しよう」）

三省堂	**（ア）第１の観点　基礎・基本の定着** ①Lesson の活動ごとに目標を提示している。 ②Ａ　１学年初期の段階から各 Lesson において、習得、活用のそれぞれの段階に応じた本文と言語活動を配置してあり、５領域をバランスよく育成できるようになっている。 Ｂ　既習文法が後の１単元で使用されている。 **（イ）第２の観点　主体的に学習に取り組む工夫** ①Ａ 単元冒頭のとびらでは、とびらの写真やＱ＆Ａを使ってレッスンの題材や場面を導入し、学習への動機付けをする設定をしている。 Ｂ「Take Action! 」の「Listen」と「Talk」に、目的や場面、状況に応じて発信する活動を設定している。 ②単元の最初のページに、文法と活動が示され、興味付けはされているが、単元の振り返りは設けられていない。 **（ウ）第３の観点　内容の構成・配列・分量** ①Ａ Lesson１～３は小学校の既習事項の確認、中学校での学びへの接続になっており、まずは聞くこと、それからペアやグループで対話をしたり発表したりとスムーズに接続できるようなレッスン構成になっている。 Ｂ 広島の原爆や佐々木禎子さんの物語を通して、平和のために自分たちができることは何かを考えることができる単元がある。（３学年　３５ページ～） **（エ）第４の観点　内容の表現・表記** ①簡単な語句や文を用いて即興で話す練習ができる「付録」がある。「付録」 ・いろいろな単語（２学年　付録１５）　・会話表現（付録４４） ・Role-Play Sheet（付録４７） ②巻末に「What Can I Do?」として、CAN-DO リストを示し、５領域別の学習到達目標を設定し、達成していればチェックを入れるようにしている。 **（オ）第５の観点　言語活動の充実** ①「Project」に、聞いたり読んだりしたことに基づき、事実や自分の考えなどを伝え合う活動を設定している。 ②各学期末に設定されている Project では、各 Lesson で学んだ知識・技能を統合的に活用させながら、表現力を育成することができる。（具体例：第３学年３２ページ 「日本限定アイスクリームを提案しよう」）

教　出	（ア）第１の観点　基礎・基本の定着 ①Lesson の Part ごとに目標を提示している。 ②Ａ Lesson では、目的・場面・状況を意識し、５領域をバランスよく活用することができるようになっている。 Ｂ既習文法が後の単元で使用されている。 （イ）第２の観点　主体的に学習に取り組む工夫 ①Ａ 単元冒頭に、題材内容を象徴する写真を大きく掲載し、関連した問いを掲載することで、題材内容への興味付けをする設定をしている。 Ｂ 「Useful Expressions」に日常的な場面を設定し、実践的なコミュニケーション活動を設定している。 ②単元の最初に単元目標を示し、単元末にまとめて振り返りを設けている。 （ウ）第３の観点　内容の構成・配列・分量 ①Ａ Lesson に入る前に６時間、リスニング中心の活動が設けられている。 Ｂ Lesson １～２は小学校既習の言語材料を活用した４技能５領域の活動が設定されている。 Ｃ Reading２ 「My Prayer for Peace」で原爆投下３日後に運行を再開した広島の路面電車の話や原爆を題材としたマンガ、２０１６年のオバマ大統領（当時）の広島訪問について読み、幅広い知識と教養を身に着ける態度を養うとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようになっている。（３学年 ９２ページ～） （エ）第４の観点　内容の表現・表記 ①簡単な語句や文を用いて即興で話す練習ができる「巻末資料」がある。 ・Activities Plus 「巻末付録」 Tips④活動用カード ②付録に、「CAN-DO 自己チェックリスト」を示し、５領域別の学習到達目標を設定し、４段階で評価できるようにしている。 （オ）第５の観点　言語活動の充実 ①「Project」に生徒自身の思考・判断を加えたり、グループで協働したりしながら課題を達成していく活動を設定している。 ②各単元末に Review（本文の要約）と Task（リスニング・スピーキング）が設定されている。Task では聞き取った内容を話す活動につなげることができる。「やり取り」に係る学習活動は比較的少ない。（具体例：目次の前ページ）

光　村	**第１の観点（ア）基礎・基本の定着** ①Unit ごとに関連する領域別の目標を提示している。 ②A Unit では、目的・場面・状況を意識し、５領域をバランスよく活用することができるようになっている。 B 既習文法が後の単元で使用されている。 **第２の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫** ①A 単元冒頭の扉では、タイトルや絵・写真で題材への興味づけを図り、音声やスライドアニメで、ストーリーの概要を理解する設定をしている。 B「Daily Life」に、実社会に即したリアルで具体的なコミュニケーションの目的や場面・状況を設定している。 ②単元の最初に領域別の単元目標を示し、単元末に振り返りを設定している。 **第３の観点（ウ）内容の構成・配列・分量** ①A 小学校で学習したことを振り返り、中学校の学びへとつなげるための導入教材 Let's Be Friends!から始まる。Unit１～３は本文の一部をコミックのセリフ形式にして掲載し、小学校での音声を中心にした学びからの接続に配慮している。 B ３年生の Unit３では生命を尊び、また国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うため、広島への修学旅行を通じて世界平和について考える構成になっている。（３学年３１ページ～） **第４の観点（エ）内容の表現・表記** ①A 簡単な語句や文を用いて即興で話す練習ができる「付録」と「帯教材」がある。「付録」　Your Coach　・リスニングを得意にしよう（４５ページ）　・話す内容を詳しくしよう（６２ページ）　・得意な話題を増やそう（１３６ページ） B「帯教材」　・その場でスピーキング Let's Talk!　・Active Words ②巻末付録に、「CAN-DO List」を示し、５領域別に学習到達目標を設定し、４段階で評価できるようにしている。 **第５の観点（オ）言語活動の充実** ①帯教材「Let's Talk」に、自分自身や身近な話題について即興でやり取りする活動を設定している。 ②各単元末にある Goal のセクションでは、単元で学習した知識・技能を５領域の統合を図った言語活動を通して活用することができる。単元目標と Goal の言語活動がリンクしており、学習内容の定着を確認することができる。（具体例：目次の次ページ）

啓林館	**第１の観点（ア）基礎・基本の定着** ①Unit の Part ごとに目標を提示している。 ②A 複数技能を統合した言語活動が行えるようになっている。 B 既習文法が後の単元で使用されている。 **第２の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫** ①A 単元冒頭の扉で、Unit で扱うテーマや写真を掲載し、関連した質問を提示することで、生徒が題材に興味関心を持てる設定をしている。 B 「Let's Talk」に、身近な場面の中で必要な情報を伝え合うなどの実践的なコミュニケーション活動を設定している。 ②単元の最初に単元目標を設定しているが、振り返りはない。 **第３の観点（ウ）内容の構成・配列・分量** ①A Unit 学習に入る前に、小学校で学んだ英語を振りかえる学習が７時間設定されている。Unit の Part１～３は文字・音声への慣れ親しみ、基礎的な知識・技能の習熟・活用・定着を目指したスモールステップによる学習が設定されている。 B 原爆や「語り部伝承プロジェクト」の紹介文を読み、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようになっている。(３学年 ３３ページ～) **第４の観点（エ）内容の表現・表記** ①簡単な語句や文を用いて即興で話すことの練習ができる「付録」がある。 「付録」 こんなときどう言うの？（６ページ） Word Box（１３６～１４３ページ） ②巻末に「Can-Do リスト」として、５領域の学習到達目標を設定し、達成していればチェックを入れるようにしている。 **第５の観点（オ）言語活動の充実** ①各 Part の「Use」に、ペアワークやグループワークなどで、自分のことを表現する活動を設定している。 ②各単元末に Unit のテーマにそって短い文章を作り、グループやクラスで発表・やり取りする Express Yourself が設定されている。各 Unit で学習した話題を基点に自己表現活動につなげることができる。 （具体例：目次の次ページ）